天野トロイカ

[現代アーティスト]

8月14日生まれ：出身地 岡山県

【活動概要】

【プロフィール】※2025年８月現在
映像や写真、文章などを軸に活動する現代アーティスト。
幼少期のいじめや双極性障害の体験から「心の傷」をテーマに掲げ、「フィクションの中のノンフィクション」をコンセプトに活動。
日本人としての祈りと呪いの感覚の探究、写真や映像などの記録媒体による記憶や想い出の解体や再構成の試み、デジタルとアナログの行き来による影響の研究などを行っている。

【個展】
2018年：【個展〜お花畑の傷跡〜】@76 Cafe OMOTESANDO
2021年：「Worthless」@The Artcomplex Center of Tokyo

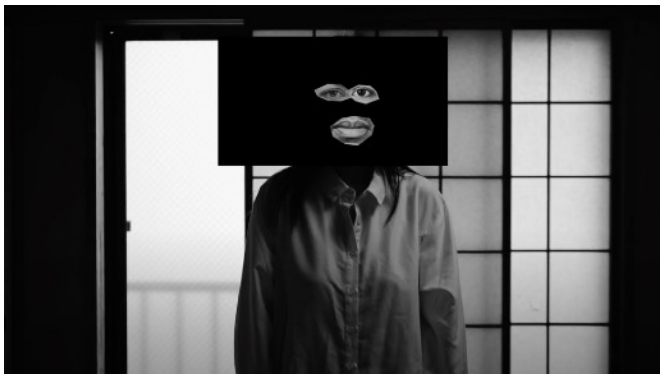
【グループ展・企画展】
2023年8月：NO ONE KNOWS Second Note[Disaggregation and reconstruction]
@中野駅高架下スペース
2024年1月：絵野めぐみ展〜絵と写真と彫刻@名古屋栄三越
2024年5月：世田谷@アーティストになろう@世田谷美術館
2024年9月：Sapporo Artistry & Beauty Photo Festival
@札幌ファッションデザイン専門学校 “DOREME”旧校舎
2025年2月：第30回 日本の美術 全国選抜作家展 @上野の森美術館

【上映歴】
2022年：Darkroom Film Festival(London)にてショートムービー「Signals」上映
2023年：なかのZEROにてWorks of AMANO TROIKAを開催（短編作品７作品を上映＋トークショーを開催）

【受賞暦】
2021年：写真集「写真とメンタル入門」第5回写真出版賞奨励賞受賞
Luxembourg Art Prize 2021芸術奨励賞受賞
第６０回富士フィルムフォトコンテスト最終選考
2022年：Madrid Arthouse Film Festival Best horror short/Stockholm Short Festival/ International Cosmopolitan Film Festival of Tokyo受賞
※短編映画【The exchanged】（邦題：イレカワリ）にて
2023年：Idemitsu Art Award 2023 入選

【映像作品】

「Signals」2分21秒 モノクロ



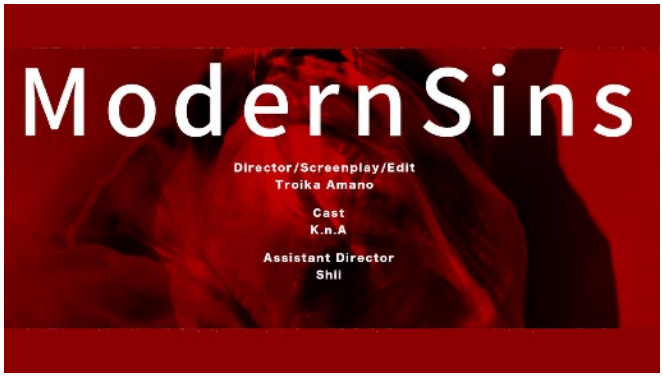
・「スマホ社会」現代人にとってスマホは生活の一部となり、無くてはならない存在になった。
しかし、そのスマホの中で行われているSNSのやりとり、便利になり疑うことがなくなった検索エンジン、そしてスマホに依存することによる安心感、これらによって現代人は自分は何者か？を認識しにくくなっているのではないか？

2022年Darkroom Film Festival(London)
にて上映

「A Narrow Space 」6分 カラー

・孝（タカシ）は閉塞感しかない今の社会が嫌でたまらなく、日々の生活に疲れている。そして孝にはいつも自分を邪魔する誰かが付き纏っている。ホテルに泊まっている孝の元に今日もいつものように自分を邪魔する誰かが現れる……。

「Modern Sins 」6分19秒 カラー



・「Modern Sins」は「見せかけ」「欲望」「劣等感」と「現実世界」で構成されている。そしてテーマは「日常に隠れた苦しみ」。
これは遠い世界の話ではなく、あなたの側にもある話。

【写真作品】

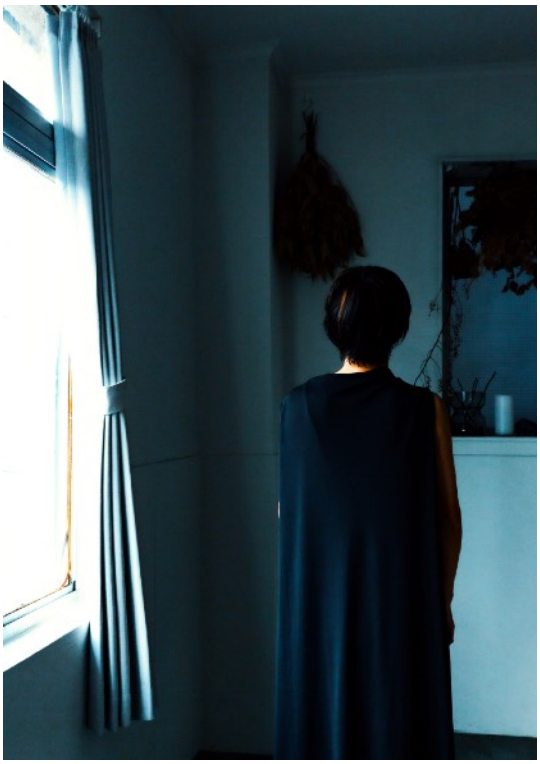
「Pray and curse(祈りと呪い）」

「見えないアート」として被写体の内面とその更に奥にある本人も気づいていない奥底を表現するシリーズ。紙の表面と裏面を利用し表面に写真を印刷し、裏にまじないをモチーフにした絵を描く。その表面と裏面が一対になって完成するアナログ作品。
祈りと呪いという言葉通り、人間の念をテーマにしており、他人には見せない自分だけの私恨や思念を形にしている。これは日本人特有の内側に溜め込み想いを墓場まで持っていくという気質の表現でもあり、より深い人間の内面を探究する行為でもある。

This series of ‘invisible art’ expresses the inner life of the subject and the depths of the subject that even he or she is unaware of.
Using the front and back sides of a piece of paper, a photograph is printed on the front and a picture is drawn on the back, using a spell as a motif. The surface and the reverse side of the paper are completed as a pair in this analogue work.
As the words ‘prayers and curses’ suggest, the theme of the work is human thoughts, and it gives form to personal grudges and thoughts that one does not show to others. This is also an expression of the Japanese characteristic of keeping their thoughts bottled up inside and taking them to the grave, and an act of exploring the deeper inner life of the human being.

タイトル【あなたが観てる】

表

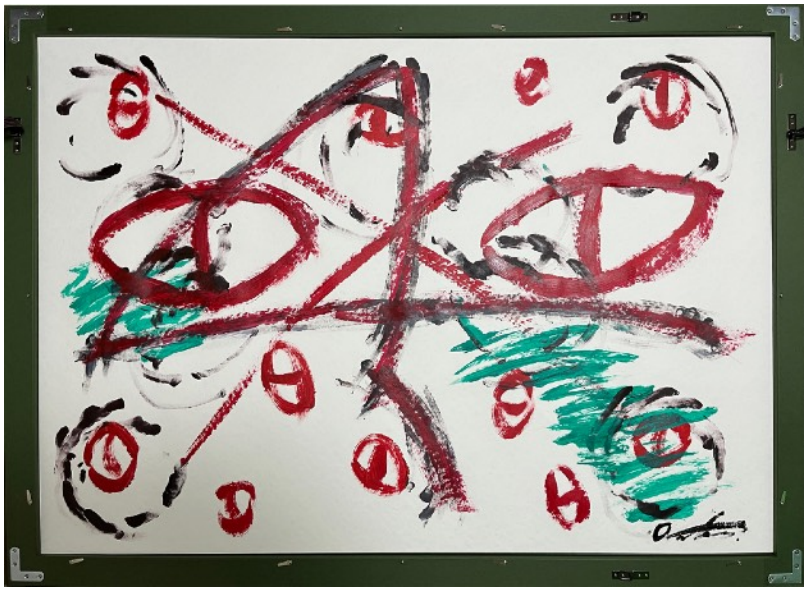


裏

タイトル【間に合わない】

表

裏



タイトル【Lost in melancholy】

表

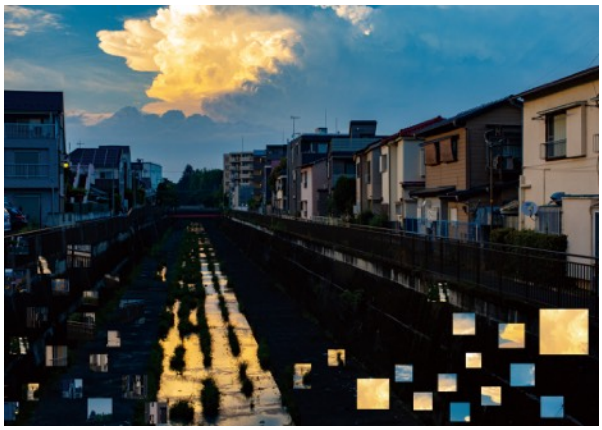
裏

「その他写真作品」

タイトル【既視感】

タイトル【Dimly lit beauty】

タイトル【変わる思い出】



タイトル【嘔吐する過去】

タイトル【Jaguar】

タイトル【Invisible shadows】